

南幌町長 大 崎 貞 二 様

南幌町監査委員 白 倉 敏 美
南幌町監査委員 加 藤 真 悟

令和 6 年度南幌町病院事業会計決算審査意見書

地方公営企業法（昭和 2 7 年法律第 2 9 2 号）第 3 0 条第 2 項の規定により、審査に付された令和 6 年度南幌町病院事業会計決算書について意見を次のとおり提出します。

記

1 審査の対象

令和 6 年度南幌町病院事業会計決算の事業報告書、事業決算書、財務諸表並びに決算書作成の基礎とする関係書類及び証拠書類などを対象にした。

- (1) 令和 6 年度南幌町病院事業決算報告書
- (2) 令和 6 年度南幌町病院事業損益計算書
- (3) 令和 6 年度南幌町病院事業貸借対照表
- (4) 令和 6 年度南幌町病院事業剰余金計算書
- (5) 令和 6 年度南幌町病院事業欠損金処理計算書
- (6) その他附属書類

2 審査の期間及び場所

期間 令和 7 年 7 月 3 0 日（1 日間）

場所 町立南幌病院 3 階会議室

3 審査の方法及び範囲

決算の審査にあたっては、南幌町監査基準に基づき、町長から審査に付された令和 6 年度南幌町病院事業決算報告書等が関係法令に定める様式を基準として調製がされているか審査を行った。

審査の方法は、関係所管課等に決算に係る資料等の提出を求め、決算諸表の計数と会計帳票等の照合・検査のほか、関係所管課等への決算概況の聴取等の審査手続きにより、予算執行が適正かつ効率的に実施されているかを主眼に、予算執行状況の年度間比較などを実施した。

また、証書類の検証、現金・預金の残高の確認等については、地方自治法第 1 9 9 条及び第 2 3 5 条の 2 の規定に基づき、定例監査及び例月出納検査において実施したので、その結果を踏まえて審査した。

なお、審査の内容は千円単位の四捨五入のため内訳と合計が一致しない場合がある。

4 審査の内容

(1) 業務の概要について

【表 1 患者数の動向】

(単位：人)

項 目		令和 6 年度					令和 5 年度	
		予 算	実 績	達成率	前年度比		実 績	前年度比
					増減数	増減率		増減数
入 院		14,600	12,110	82.9%	△1,340	△10.0%	13,450	△1,182
外 来	内 科	12,636	13,620	107.8%	507	3.9%	13,113	△125
	小児科	1,250	1,372	109.8%	△294	△17.6%	1,666	198
	眼 科	1,701	1,088	64.0%	16	1.5%	1,072	127
	小 計	15,587	16,080	103.2%	229	1.4%	15,851	200
合 計		30,187	28,190	93.4%	△1,111	△3.8%	29,301	△982
内科患者数		27,236	25,730	94.5%	△833	△3.1%	26,563	△1,307

※入院患者は全て内科の患者

①入院・外来患者数

延患者数は、入院患者が 12,110 人と予算 14,600 人を 2,490 人下回り、達成率 82.9%、前年比△1,340 人、10.0%の減となった。

外来患者は、16,080 人と予算 15,587 人を 493 人上回り、達成率 103.2%、前年比では 229 人、1.4%の増となった。

外来患者に含まれる訪問診療件数は延べ 660 件と前年度の 593 件に比べ 67 件、11.3%上回った。医療連携による受診、転院、検査を含めた紹介件数は 137 件と前年度の 157 件に比べ 20 件、12.7%の減少、他院からの転院依頼件数は 64 件と前年度の 81 件に比べ△17 件、21.0%の減少、受入実績は 73 件と、前年度の 64 件に比べ 9 件、14.1%増加した。

入院・外来患者数の合計は 28,190 人と予算延患者数 30,187 人に対し 1,997 人下回り、達成率 93.4%となった。

②診療科別延患者数

診療科別に延患者数を見ると、入院、外来を合わせて内科は 25,730 人と予算比△1,506 人、達成率 94.5%、前年比△833 人、3.1%減少した。

小児科は 1,372 人となり、前年比△294 人、17.6%減少した。眼科は 1,088 人、前年比 16 人、1.5%増加した。

③医業利益（医業収支）の状況と医業収支比率

【表2 医業収支の推移】

（単位：千円）

年度 項目	令和6年度		令和5年度		令和4年度	
	収支差	前年増減	収支差	前年増減	収支差	前年増減
医業収支	△201,703	赤字増加 △54,952	△146,751	赤字増加 △20,361	△126,390	赤字減少 61,392
医業収支比率	72.0%	△6.8	78.8%	△2.9%	81.7%	7.9%

本年度の医業収支は△201,703千円と前年比では赤字幅が54,952千円増加した。

医業収益を医業費用で除した医業収支比率は、72.0%と6.8%低下した。医業収支比率は、医業に投下した費用を医業収益で収入した割合を示している。

医業費用は721,235千円と前年比29,484千円、4.3%増加し、医業収益が519,532千円と、前年比△25,468千円、4.7%減少したことから、医業収支比率の低下につながった。

④年度別病床利用率の推移

【表3 年度別病床利用率の推移】

（単位：％、床）

区 分	令和6年度		令和5年度		令和4年度	
	実績	前年度比	実績	前年度比	実績	前年度比
利 用 率	55.3	△5.9	61.2	△5.6	66.8	2.7
延病床数	21,900		21,960		21,900	

町立南幌病院は令和2年8月に、一般病棟26床、療養病棟54床の合計80床から、一般病棟のみ60床へ病床数の削減と同年10月に病棟機能転換を行ったが、一般病床の利用率は、本年度55.3%と前年度の61.2%を下回っている。

病床利用率は医業収益の増減と経営収支に大きく影響し、町立南幌病院の収益確保に重要なことから、地域医療連携室を中心に関係機関との医療連携強化を行うことで病床利用率を上げることが重要である。

⑤診療単価について

本年度の一人1日当たりの診療報酬は入院で25,777円と前年比1,328円、5.4%の増加、外来で7,888円と前年比△197円、2.4%減少した。令和2年度の病棟機能転換以降、一人当たりの入院単価が上昇している。

外来では、新型コロナウイルス感染症に係る各種加算の縮小・廃止に伴い単価が減少した。

(2) 収益的収支について

【表4 比較収支計算書】

(単位：千円)

科 目		令和6年度					令和5年度
		予算現額	決算額	達成率	増減額	増減率	実 績
医業収益	入院収益	350,400	305,749	87.3%	△22,766	△6.9%	328,515
	外来収益	116,481	131,720	113.1%	1,448	1.1%	130,272
	その他医業収益	73,014	82,063	112.4%	△4,150	△4.8%	86,213
	合 計	539,895	519,532	96.2%	△25,468	△4.7%	545,000
医業費用	給 与 費	454,952	436,481	95.9%	21,555	5.2%	414,926
	材 料 費	56,272	50,135	89.1%	2,355	4.9%	47,780
	経 費	189,690	179,126	94.4%	5,636	3.2%	173,490
	減価償却費	54,512	54,510	100.0%	524	1.0%	53,986
	資産減耗費	500	402	80.4%	△796	△66.4%	1,198
	研究研修費	1,500	581	38.7%	210	56.6%	371
	合 計	757,426	721,235	95.2%	29,484	4.3%	691,751
医 業 利 益		△217,531	△201,703	92.7%	△54,952	37.4%	△146,751
医業外収益	受取利息及び配当金	1	245	24,500.0%	243	12,500.0%	2
	患者外給食収益	1,280	1,058	82.7%	231	27.9%	827
	他会計負担金	50	50	100.0%	13	35.1%	37
	他会計繰入金	192,450	192,450	100.0%	△24,137	△11.1%	216,587
	その他医業外収益	11,154	10,267	92.0%	2,375	30.1%	7,892
	長期前受金戻入	20,098	19,917	99.1%	259	1.3%	19,658
	補 助 金	2,055	2,030	98.8%	△17,706	△89.7%	19,736
	合 計	227,088	226,017	99.5%	△38,722	△14.6%	264,739
医業外費用	支払利息及び企業債取扱諸費	334	83	24.9%	28	50.9%	55
	患者外給食費用	1,148	1,061	92.4%	233	28.1%	828
	雑 損 失	1,600	1,874	117.1%	△1,080	△36.6%	2,954
	合 計	3,082	3,018	97.9%	△819	△21.3%	3,837
経 常 利 益		6,475	21,296	328.9%	△92,855	△81.3%	114,151
特 別 利 益		0	0	—	0	—	0
特 別 損 失		0	0	—	0	—	0
当年度純利益		6,475	21,296	328.9%	△92,855	△81.3%	114,151

医業収益は519,532千円と予算現額539,895千円に対し△20,363千円、達成率96.2%、前年比△25,468千円、4.7%の減収、うち入院収益は305,749千円と予算現額350,400千円に対し△44,651千円、達成率87.3%、前年比△22,766千円、6.9%減収した。

外来収益は、131,720千円と予算現額116,481千円に対し15,239千円、達成率113.1%、前年比1,448千円、1.1%増収し、医業収益の大部分を占める入院・外来収益は、437,469千円と予算現額466,881千円に対し△29,412千円、達成率93.7%、前年度実績458,787千円に比べ△21,318千円、4.6%の減収となった。

その他医業収益は82,063千円と予算現額73,014千円に対し9,049千円、達成率112.4%、前年比△4,150千円、4.8%減少した。

一般会計からの繰入普通交付税(救急告示分)36,294千円と特別交付税(小児救急医療提供病院)11,375千円は前年と同額となった。

医業費用合計721,235千円は予算現額757,426千円に対し△36,191千円、達成率95.2%、前年比29,484千円、4.3%増加している。

給与費は436,481千円と達成率95.9%、前年比21,555千円、5.2%増加した。人事院勧告による給与改定による。

材料費は50,135千円と達成率89.1%、物価高騰の影響により薬品費など前年比2,355千円、4.9%増加した。

経費は179,126千円と達成率94.4%、光熱水費や燃料費の高騰により前年比5,636千円、3.2%増加した。

減価償却費は、54,510千円と前年比524千円、1.0%増加、資産減耗費は資産の除去に45千円、使用期限切れ等による薬品類の棚卸資産除去費357千円の支出により402千円と前年比△796千円、66.4%減少した。

この結果、医業利益は予算現額△217,531千円に対し決算額△201,703千円と予算比15,828千円、前年度の△146,751千円に比べ△54,952千円、37.4%低下している。

医業外収益226,017千円は予算現額227,088千円に対し△1,071千円、達成率99.5%、前年比△38,722千円、14.6%減少した。うち他会計繰入金192,450千円の内訳は、普通交付税(病床分)46,905千円、特別交付税等85,797千円(不採算地区74,026千円、医師派遣分1,434千円、基礎年金拠出分9,837千円、経営強化プラン500千円)に加え、児童手当3,000千円、リハビリテーション医療に要する経費8,673千円、医師確保対策28,075千円、資金不足に伴う一般会計繰入金20,000千円である。長期前受金戻入19,917千円は、過去に一般会計等から受入れた補助金を収益に振り替え、減価償却費の財源となっているもので、前年比259千円、1.3%増加した。補助金は国民健康保険調整交付金2,030千円を一般会計経由で受入れ、前年比△17,706千円、89.7%減少した。

医業外費用3,018千円は予算現額に対し△64千円、達成率97.9%、消費税納付分の減少により前年比△819千円、21.3%減少した。

以上の結果、当該年度純利益は21,296千円、前年度の114,151千円と△92,855千円、81.3%の減少となった。

(3) 資本的収支について

【表5 資本的収支の明細】

(単位：千円)

区 分		令和 6 年度			令和 5 年度	令和 4 年度
		決 算 額	前年度対比			
			増減額	増減率		
収 入	出 資 金	26,720	△597	△2.2%	27,317	23,216
	繰 入 金	0	△3,000	皆減	3,000	740
	企 業 債	11,700	500	4.5%	11,200	9,500
	補 助 金	0	0	—	0	0
	収 入 合 計	38,420	△3,097	△7.5%	41,517	33,456
支 出	建 設 改 良 費	11,795	△2,537	△17.7%	14,332	10,412
	企業債償還金	40,079	△895	△2.2%	40,974	34,824
	支 出 合 計	51,874	△3,432	△6.2%	55,306	45,236
収支差		△13,454	335	△2.4%	△13,789	△11,780

資本的支出のうち、建設改良費では機械及び備品購入費として常温配膳車 363 千円、リクライニングスケール 550 千円、薬用保冷庫 715 千円、液晶視力表 487 千円、スリットランプマイクロスコープ 2,035 千円、工事請負費として発熱外来診察室改修工事 7,645 千円を支出し合計 11,795 千円、企業債償還金として 40,079 千円、合計 51,874 千円を支出している。

資本的収入は企業債発行 11,700 千円のほか、一般会計からの企業債償還元金相当額 26,720 千円を出資金として受入れ、合計 38,420 千円となった。

この結果、現金の出入りを伴う資本的収支差額は△13,454 千円となった。

このほか当年度減価償却費 54,510 千円など現金支出の伴わない費用に対し損益勘定留保資金を充てている。

(4) 財務について

本年度病院事業会計の財務規模は 1,113,757 千円と前年比△2,229 千円、0.2%減少している。

①資産の部（運用）

【表 6 比較貸借対照表（資産）】

（単位：千円）

区 分		令和 6 年度				令和 5 年度	
		決 算 額	構成比	前 年 度 対 比		決 算 額	構成比
				増減額	増減率		
固定資産	土 地	13,454	1.2%	0	0.0%	13,454	1.2%
	減価償却資産	1,990,476	178.8%	10,946	0.6%	1,979,530	177.4%
	減価償却累計額	△1,505,397	△135.2%	△53,705	3.7%	△1,451,692	△130.1%
	減価償却資産小計	485,079	43.6%	△42,759	△8.1%	527,838	47.3%
	無形固定資産	153	0.0%	0	0.0%	153	0.0%
	固定資産計	498,686	44.8%	△42,759	△7.9%	541,445	48.5%
流動資産	現金・預金	537,510	48.2%	44,494	9.0%	493,016	44.2%
	未 収 金	75,400	6.8%	△3,988	△5.0%	79,388	7.1%
	貯 蔵 品	2,161	0.2%	24	1.1%	2,137	0.2%
	流動資産計	615,071	55.2%	40,530	7.1%	574,541	51.5%
資 産 合 計		1,113,757	100.0%	△2,229	△0.2%	1,115,986	100.0%

資産勘定では、固定資産の正味残高は 498,686 千円と前年比△42,759 千円、7.9%減少した。

流動資産の 40,530 千円、7.1%の増加は、現金・預金が前年比 44,494 千円 9.0%と大幅に増加したため、これは、医業収益が安定していることが要因である。

②有形固定資産の状況

【表 7 有形固定資産の明細】

(単位：千円)

区 分	前年度末 残高	令和 6 年度				
		増加	減少	年度末 現在高	減価償却 累計額	年度末償 却未済高
土 地	13,454	0	0	13,454	0	13,454
建 物	1,602,767	7,645	0	1,610,412	1,201,568	408,844
構 築 物	66,940	0	0	66,940	63,593	3,347
器械・備品	307,272	4,150	890	310,532	238,687	71,845
車 両	2,591	0	0	2,591	1,548	1,043
合 計	1,993,024	11,795	890	2,003,929	1,505,396	498,533

本年度末の有形固定資産残高は土地を含め 2,003,929 千円と前年比 10,905 千円増加している。減価償却累計額 1,505,396 千円は前年比 53,703 千円の増加であり、年度末の減価償却資産に対する償却率は 75.1%となっている。

③負債・資本の部（調達）

【表 8 比較貸借対照表（調達）】

(単位：千円)

区 分			令和 6 年度末				令和 5 年度末	
			決算額	構成比	前年度対比		決算額	構成比
					増減額	増減率		
負債の部		企 業 債	77,662	7.0%	△29,673	△27.6%	107,335	9.6%
		固定負債合計	77,662	7.0%	△29,673	△27.6%	107,335	9.6%
	流動負債	企 業 債	41,373	3.7%	1,294	3.2%	40,079	3.6%
		未 払 金	36,572	3.3%	△3,067	△7.7%	39,639	3.6%
		諸 引 当 金	29,858	2.7%	2,641	9.7%	27,217	2.4%
		その他流動負債	3,110	0.3%	△1,523	△32.9%	4,633	0.4%
		流 動 負 債 計	110,913	10.0%	△655	△0.6%	111,568	10.0%
	繰延収益	長 期 前 受 金	615,621	55.3%	0	0.0%	615,621	55.2%
		長期前受金収益化累計額	△479,026	△43.0%	△19,917	4.3%	△459,109	△41.1%
		繰 延 収 益 計	136,595	12.3%	△19,917	△12.7%	156,512	14.0%
	負 債 合 計		325,170	29.2%	△50,245	△13.4%	375,415	33.6%

資本の部	資本金	固有資本金	35,033	3.1%	0	0.0%	35,033	3.1%
		再評価組入資本金	1,885	0.2%	0	0.0%	1,885	0.2%
		繰入資本金	1,151,285	103.4%	26,719	2.4%	1,124,566	100.8%
		組入資本金	90,601	8.1%	0	0.0%	90,601	8.1%
		資本金計	1,278,804	114.8%	26,719	2.1%	1,252,085	112.2%
	剰余金	繰越利益剰余金	△511,513	△45.9%	114,152	△18.2%	△625,665	△56.1%
		当年度純利益	21,296	1.9%	△92,855	△81.3%	114,151	10.2%
		剰余金計	△490,217	△44.0%	21,297	△4.2%	△511,514	△45.8%
	資本合計		788,587	70.8%	48,016	6.5%	740,571	66.4%
	負債・資本の部合計		1,113,757	100.0%	△2,229	△0.2%	1,115,986	100.0%

負債勘定では、固定負債で新規に病院整備事業債 11,700 千円を発行したが、翌年度償還分 41,373 千円を流動負債の部に振り替えたため、29,673 千円減少した。

病院整備事業債は、前年度末残高 147,414 千円（固定負債 107,335 千円、流動負債 40,079 千円）に対して 11,700 千円を発行し 40,079 千円を償還したことから、本年度末残高は 119,035 千円（固定負債 77,662 千円、流動負債 41,373 千円）となった。

流動負債は、負債について決算日の翌日から起算して 1 年以内支払分を流動負債、1 年超支払分を固定負債に区分する 1 年会計基準により、令和 7 年度の償還予定額 41,373 千円を固定負債から振り替え、企業債残高が 41,373 千円と 1,294 千円の増加、未払金が 36,572 千円と 3,067 千円の減少、職員手当に係る賞与引当金及び法定福利費引当金が 29,858 千円と 2,641 千円増加したことなどから 110,913 千円と前年比△655 千円、0.6% 減少した。

繰延収益は固定資産取得に伴い、過去に受入れた一般会計等からの補助金 19,917 千円を長期前受金戻入に計上し減価償却費の財源に充て、新たに 2,030 千円の補助金を受け 136,595 千円と前年比△19,917 千円、12.7%減少した。

資本の部では繰入資本金が 1,151,285 千円と一般会計から 26,719 千円の繰入れにより増加したほかに異動はなく、当年度純利益が 21,296 千円となったことから当年度末未処分利益剰余金（累積欠損金）は△490,218 千円となり資本合計は 788,587 千円となった。

5 審査意見

(1) 令和6年度の概況について

令和6年度病院事業会計決算では、入院・外来患者数において、予算における見込み人数は入院で14,600人、外来で15,587人であったが、決算では入院12,110人、達成率82.9%、外来16,080人、達成率103.2%となった。予算対比で入院患者数が少なかった理由として、国では今後需要が高まると予想される在宅医療への対応を強化するため入院に限らない医療体制を整備する方向性となっており、診療報酬も急性期医療を終えた患者が在宅や介護施設への復帰に向けて医療やリハビリテーション、退院支援などに対して手厚い傾向にある。近隣市町でも、地域ケア包括病棟の活用と整備が進んでおり、従前は町立南幌病院へ転院してきた患者がそのまま元の病院の地域包括ケア病棟に転床していることが影響しているものと推察され、病床利用率が前年度より5.9%減少していることも同様の理由である。

医業収支の状況と医業収支比率は、昨年度より赤字が54,952千円増加しており、医業収支比率も6.8%減少した。この理由については、収益面では、入院患者の減少による入院収益の減少が大きく、費用面では、人事院勧告による人件費の増加や、本来であれば、入院患者の減少に比例して減少する材料費等の経費が、物価高騰により横ばいもしくは増加していることによるものである。

令和6年度の町立南幌病院の決算の状況は、「地域のみなさんを治し支え、その人らしい生活を支援する」という理念に基づき総合診療や訪問診療を軸とした経営方針を掲げている。その経営理念に共感するスタッフが徐々に集まり、近郊の病院と比較しても誇れる診療体制となっている。

今後は、地域への情報発信によりイメージアップを図ることが重要であり、収益面では、入院患者数の減少による病床利用率の低下が大きく影響していることから、利用率の改善が町立南幌病院の安定的・持続的な経営につながるものと考えます。

(2) 審査意見の総括

令和6年度南幌町病院事業会計の決算報告書及び事業決算書並びに付属書類は関係諸帳表により検証した結果、それぞれ関係法令に基づいて作成され、その計数は適正に表示していると認められる。

公立の病院事業は全国的に利用者の減少により厳しい経営環境となっている。今後、町立南幌病院がどのような役割を担っていくのかを鑑み、より利用者の多い病院を目指し安定的な経営が続くことを期待し、審査意見とする。